

平成29年度 第1回石狩市民図書館協議会の会議 議事録

平成29年7月25日(火)午後3時より午後5時15分

石狩市民図書館 視聴覚ホール

出席者	石狩市民図書館協議会	会 長	河村 芳行
		委 員	中川 聡子
			北條 静香
			青木 貞康
			中村 友昭
			奥村 佳恵
			森地 亜矢子

石狩市民図書館	館 長	東 信也
	副館長	清水 千晴
	奉仕兼事業担当主査	岩城 千恵
	事業兼奉仕担当主査	鎌田 晶彦
	事業兼奉仕担当主任	鈴木 美幸

傍聴者 0名

<会議次第>

1. 報告事項

- (1) 平成28年度事業報告について
- (2) 平成29年度運営の重点について
- (3) 平成29年度事業進捗状況について
- (4) 事業者等からの寄附・寄贈について

2. 協議事項

- (1) 市民図書館アンケートについて

3. その他

■開会

河村会長：これより平成29年度第1回石狩市民図書館協議会を開催します。本日の欠席は、水野副会長、光川委員の2名です。

なお、双葉小学校教頭の吉田委員が平成29年3月31日をもって市外へ転勤されたことに伴い、石狩市教頭会からの推薦により、後任委員として双葉小学校教頭の山本委員に図書館協議会委員として委嘱しました。本日、山本委員につきましては、欠席または遅れて参加とのことです。

ここで、図書館から報告があるそうです。

東館長：図書館職員の異動についてご報告を申し上げます。5月16日付で鈴木美幸が図書館に配属となりました。

鈴木：鈴木です。不慣れですがどうぞよろしくお願いいたします。

河村会長：それでは、本日の予定についてお知らせいたします。

まず報告事項として1点目に「平成28年度事業報告について」、2点目に「平成29年度運営の重点について」、3点目に「平成29年度事業進捗状況について」、4点目に「事業者等からの寄附・寄贈について」、最後に「市民アンケートについて」協議する予定となっております。

閉会予定時刻、16時30分を目処に終了したいと思いますので、円滑な協議を進めるためにご協力をお願いいたします。

続いて資料の確認ですが、図書館から送付されている資料は皆さんお持ちでしょうか。お持ちでない方がいらしたらお知らせください。

清水副館長：資料についてですが、資料3の差し替えをお願いします。また、資料5につきまして、追加資料としてお受け取り願います。

■議事

1. 報告事項

(1) 平成28年度事業報告について

河村会長：議事に入ります。まず、「平成28年度事業報告について」報告を受けます。図書館は説明をお願いします。

岩城主査：それでは、「平成28年度事業報告について」報告いたします。資料1の図書館要覧

の12ページ以降と、パワーポイントをご覧ください。平成28年度運営の重点に沿って説明いたします。

「子どもの学びを支援する」

学校図書館の体制整備では、小規模小学校へ司書を派遣しました。これによって、平成28年度で全小学校への学校司書の配置と派遣を完了いたしました。また、望来小学校の夏季集中支援では、学校司書全員で蔵書の整理や除籍などの作業を行ない、子どもたちが本に親しみをもちやすい環境を整えました。

中学校への支援では花川北中学校からのリクエストを受け、平成28年10月から花川北中学校の学区である双葉小学校司書を月1回派遣しています。

ネットワークを活用した読書支援では、花川小学校をモデル校に試行を重ねました。学校司書の資質向上では冬季研修と、おはなし会などの研修を実施いたしました。

家読（うちどく）につきましては、今年の4月に小学校に入学する子ども達対象の「就学時健診」の会場へ赴き、本に親しみを持ってもらえるように作成した家読（うちどく）リストを配布するとともに、健診の待ち時間には、大人用と子ども用の本を図書館から持参し、出張貸出しを実施しました。

調べる学習コンクールは図書館まつりの中で表彰式を行いました。審査会では図書館協議会委員の水野副会長、中川委員、転勤された吉田委員に審査員になっていただきました。

中高生を対象とした石狩市民図書館のヤングコーナーでは、樽川中学校図書委員の生徒たちが、おすすめ本の特集展示を行いました。毛糸やフェルト生地を利用した中学生の瑞々しいアイデアいっぱいの楽しい展示コーナーができました。

鎌田主査：つづきまして、鎌田より説明いたします。

「資料提供や情報発信を通じた生涯学習の充実」

昨年から選挙年齢が18歳に下がったことを受け、選挙に関心を持てるような特集を展示しました。また、環商事様から寄贈された児童書72冊の資料展示を行いました。

道新データベース、日経テレコンで新聞や雑誌、企業情報などを検索し利用者に情報提供しておりますが、職員の日経テレコン研修は、6月の図書整理日にあたる休館日を利用し、実施しました。

友好図書館交流は、おはなしボランティア子っ子の会のメンバーが輪島市立図書館へ赴き、おはなし会実施や、輪島市立図書館のおはなしボランティアと交流しました。また、石狩市民図書館ボランティア布の絵本にじのメンバーが名取市図書館へ赴き、布の絵本に関するアドバイスや交流をしました。

「市民の誰もが利用できるような環境を整備する」

返却場所の拡充は継続中ですが、小学校やいしかり砂丘の風資料館など市内4か所に返却場所を設置しています。ぽぽらーとを含めると、市内5か所の返却ポイントになります。また、来館が困難な方へのサービス拡充として、手話フェスタへの出張貸出しを行いました。

分館でのサービス活性では、花川南分館で人気のある文庫本を、見やすい棚に移動しました。

「サービスを支える基盤を整備する」

第17回図書館まつりを10月29日、30日に開催し、5,054人の来場がありました。2日目には、普段は入ることのできない閉架書架や事務室など、司書が案内するミステリーツアーも行いました。

第6回科学の祭典は9月10日に開催し、25ブース37種類以上の体験実験・工作体験ブース、館外では8台のはたらく車ブースを展示しました。

「利用者の期待に応える蔵書・情報源を構築する」

雑誌スポンサー制度では、市民の方や団体、企業など事業者等から雑誌の提供を受けております。図書の無償譲渡は、情報や内容など古くなった資料を除籍し、利用者へ譲渡しました。また、雑誌リサイクル広場では、保存年限の切れた雑誌を利用者へ譲渡しました。

本館の蔵書点検は、1月30日から2月2日の期間で実施しました。

河村会長：ここまで「平成28年度事業報告について」報告いただきましたが、ご質問、ご意見などはありませんか。

毎回のお願いで申し訳ないのですが、議事録作成のために録音をしていますので、私に指名された際、お名前を言ってから発言していただきますようお願いいたします。また、なるべく大きな声でご発言ください。

質問等が無いということなので、ひとつ私のほうから伺います。蔵書点検をされたということですが、紛失点数などはどうでしたか。

岩城主査：全館の蔵書点数322,840点のうち、本館の蔵書点数は289,027点になります。蔵書点検の結果、本館の不明点数は123点です。

河村会長：少ないですね。石狩市民図書館は、紛失した図書の冊数は公表していないのですか。

清水副館長：公表はしていません。開館当初は関心が高いかと思い、蔵書点検結果を教育委員会会議などで報告していましたが、現在は関心も落ち着いたことからしていません。なお図書館要覧内には不明資料点数を載せています。

河村会長：もちろん紛失資料が無いのは一番ですが、他市に比べて石狩市は少ないと思いますし、公表するのも良いかと思います。

東館長：利用者のモラルが高いと思っておりますが、今後、破損等が目立ってくるようなことがあれば、時期に応じて公表することも考えてみたいと思います。

河村会長：他にご質問やご意見はございませんか。

青木委員：職員数は司書がほとんどで構成されていますが、司書とはどのような資格を、どのように取得しているのですか？

河村会長：司書は文部科学省が認可する資格ですが、国家試験はありません。認可が下りている大学で必要な単位を取得することにより、資格を得ることができますし、通信教育で資格を取ることもできます。

他にご質問やご意見はございませんか。

北條委員：感想ですが、今後も継続してほしいと思うものがありました。ヤングコーナーでの中学生のおすすめ本展示は画像の表情にも表れていましたが、とても良いと思いました。また、花川南分館の文庫の書棚の様子は非常に探しやすい、取りやすさ、見やすさを感じます。私たち利用者にとっては嬉しいことだと思いました。それと、子ども向けと大人向けの本を用意し、出張貸出を実施したというのはブックスタートでしたでしょうか。

岩城主査：就学時検診会場でのブックリスト配布時です。家読（うちどく）事業で第2のブックスタートとして位置づけしております。大人向けには雑誌や子育てに関する本を持参し、就学時健診を待つ合間に手に取っていただけるようにコーナーを設置しました。

北條委員：とても良いと思います。子ども向けだけではなく、親が本を読む習慣は子どもにも影響しますので、大人の読書習慣を意識し、両方用意するということはとても良いと思いました。

中村委員：資料1の11ページ、本学(藤女子大学)図書館紹介状発行件数について、やや減少していますが、石狩市民の方に花川館の図書室と、札幌市の校舎の図書館も利用できるということになっています。また、大学としても石狩市と包括協定を結んでいます。

私どもの図書館では、以前は夜間開館のアルバイトとして学生を採用していたのですが、今度名称を「周辺図書部」として、日中も図書館業務に携わってもらうようにしました。本学に

も図書館情報学科があるのですが、図書館でのボランティア活動などなかなか進んでおりません。先ほどの「図書部」には、図書館情報学科の非常にやる気のある学生スタッフもあり、せっかく石狩市民図書館とやりとりしているのだから、資料展示など、いろいろな面でこの連携を深めたらどうかと意見が出ています。今後、本学からお願いすることがあれば是非ご協力よろしくお願ひたいと思います。

東館長：是非よろしくお願ひいたします。

中村委員：もう一点、蔵書点検は1日で全て行なうのですか。

岩城主査：2日間で1冊1冊本をスキャンし、3日目にデータの突合作業を行ってリストを抽出し、4日目に不明資料の搜索や、正しい場所に本が配架されているか確認するという作業を行っています。

中村委員：この期間は閉館しているのですか。

岩城主査：閉館しています。

中村委員：ありがとうございます。本学は全体で38万冊あるのですが、実際には毎年5万冊くらいしか点検できません。通常は閉館して行うのですが、時期によっては閉館できないことがあり、今年は開館しながら行いました。効率的には悪いのですが、学内の事情によります。

岩城主査：資料1の10ページにありますように蔵書点数が多いため、ボランティアの方、延べ16名にご参加いただきました。作業初日は月曜日で休館日のため、臨時休館は実質3日間となります。

（2）平成29年度運営の重点について

河村会長：次に「平成29年度運営の重点について」報告を受けます。図書館は説明をお願いします。

清水副館長：資料2をご覧ください。

「1 運営の重点」

石狩市民図書館ビジョンで掲げる5つの柱について、現状を踏まえ、今年度の運営の重点を設定しております。

同ページの2では、5つの柱に関する取り組みとして、それぞれの関連事業を掲載しているため、実際に何を重点的に行なうのか、具体的な事業内容と合わせて説明いたします。

「柱1. 子どもの学びを支援する」

「学校図書館の体制整備」を重点に取り組んでまいります。2ページ目の(4)「子どもの読書活動の基盤整備」の中の「学校図書館の蔵書の充実」ですが、昨年度第2回の石狩市民図書館協議会で、学校図書館に関する予算要求の状況を報告いたしました。その時点では、文部科学省が設定している学校図書館図書標準の目標冊数を全校達成させるとして、必要額を要求しているという報告をしました。その後、国が平成29年度から始まる「学校図書館図書整備等5か年計画」及び、計画の策定に伴う地方財政措置を発表したことから、この計画に基づき5年で達成させる見通しとした額が措置されたものです。また今年度から、学校図書館図書標準の目標冊数について、石狩市教育委員会独自の考え方を決めました。具体的には、本日お配りした資料5「学校図書館図書標準に対する石狩市教委独自の考え方」をご覧くださいと思います。

あらためまして、学校図書館図書標準とは、公立の義務教育諸学校において、学校図書館の図書整備を図る際の目標として文部科学省が設定しているものです。児童生徒数ではなく、学級数に応じて冊数が算定されています。ここで難しいのが、特別支援学級の扱いでした。支援が必要な児童・生徒が1人増えたことに伴い、学級が1クラス増えると、目標冊数が300冊、400冊の単位で増えるということになります。つまり特別支援学級数は通常学級に比べて年度により増減しやすく、これに伴って各年度の目標冊数が変動するなど、目標達成や蔵書管理に大きく影響いたします。こういった実態を踏まえ、石狩市では今年度から特別支援学級について、支援の必要な全児童生徒数35人までを1学級（法令で定める小学校の通常学級の第1学年の上限）とみなし、学級数を算定した冊数を目標として、全小中学校における目標達成を目指すことといたしました。

あらためて、図書費増額の内容です。今年度は学校図書館用図書費の増額を行いました。まず全校に対し、前年度の1割増額をしています。更に、特に不足している学校には、特別の増額をしています。

もう1つの重点的に進める事業として「学校図書館の体制整備」を行ってまいります。小規模小学校及び中学校図書館の整備支援を推進するのですが、昨年度に開始した、小規模小学校5校への学校司書派遣の体制を生かし、整備を推進してまいります。また、今年度からは平成32年度に統合される石狩小と八幡小、そして厚田区内の小学校3校と中学校2校において、統合に向けた作業を始めているところです。

中学校図書館については、花川北中からの要請を受け昨年度から行っている蔵書整備を、今年度も月に1度実施しております。その他、今後の中学校図書館の整備の方向性を探るため、必要な支援を行いながら、現状把握を進めたいと考えております。

「柱２．資料提供や情報発信を通じて生涯学習を支援する」

「情報の発信」を重点的に取り組んでまいります。３ページをご覧ください。関連事業に記載しておりますように、特集コーナーの充実と、各種サービスのPRを行います。特集コーナーについては、昨年度まで月ごとのテーマ設定でしたが、今年度からは貸出期間の２週間に合わせまして、２週ごとにテーマを変えて特集コーナーを設置しています。

「柱３．市民の誰もが利用できるような環境を整備する」

「分館でのサービス活性化」を行なってまいります。同じく３ページをご覧ください。「地域性を考慮したサービス展開による利用の促進」を図るため、今年度、試行的に花川南分館と八幡分館で運営計画を作成いたしました。５ページ、６ページに掲載しておりますが、それぞれ設置されている地域の地域性及び利用実態を考慮し、各分館司書に明文化してもらいました。

先ほど北條委員からもお褒めに預かりましたが、文庫を南分館で集め、整備したいと提案したのも分館司書で、地域性や利用者のあり方を踏まえて進めたいという意見から実行しています。結果的には両分館とも、「高齢者」と「児童」に対するサービスをあげています。

いずれの対象者も、本館までの来館が困難な層であり、分館設置の意義と日々の利用実態の傾向が反映された内容になっていると考えております。

「柱４．サービスを支える基盤を整備する」

「市民協働による事業展開」を行ってまいります。４ページに掲載しておりますが、今年度も引き続きボランティア・関係団体との連携による事業展開を行います。今年はすでに、おはなしボランティアの研修会等を開催しております。また、図書修理ボランティアも８月に北海道立図書館へ行って見学及び交流を深める予定です。

更に今年度は、後ほど皆様にご協議いただきますが、市民図書館アンケートの実施を予定しています。

「柱５．利用者の期待に応える蔵書・情報源を構築する」

「魅力的な蔵書・情報源の構築」を行ってまいります。魅力的な蔵書を構築するため、今年度も引き続きまして、資料の除架、除籍の計画的な実施を行います。

河村会長：何かご質問等はありませんか。一点、私からよろしいでしょうか。

「柱１ こどもの学びを支援する」の成果指標の見方ですが、学校図書館図書標準達成校数の平成25年度実績で小学校３校、平成26年度実績は５校になっています。学校数は積算されているのですか。

清水副館長：これは各年の実数です。

河村会長：小学校の数は増えていますが、中学校は減っています。統合でしょうか。

清水副館長：統合ではなく実際に達成校が減少したためです。お手元の次第の3ページをご覧くださいと平成28年度実績では、達成した小学校数が減少しています。理由は、平成27年度には目標を達成していた学校が大幅に除籍したことにより、図書標準を割ったことによりです。

河村会長：石狩市内の小中学校数は何校ですか。

清水副館長：小学校は13校、中学校は8校です。

河村会長：それでは、まだ達成できていない学校が多いということですね。平成31年度の達成目標はもう少し先ということでしょうか。

清水副館長：さきほど説明させていただきました国の学校図書館図書費に対する地方財政措置を受け、また平成33年度までの5か年計画で「学校図書館図書標準に対する石狩市教委独自の考え方」により、平成33年度の目標達成を目指しております。

河村会長：他の委員の方、何かご質問や意見はありませんでしょうか。

（３）平成29年度事業進捗状況について

河村会長：次に「平成29年度事業進捗状況について」報告を受けます。図書館は説明をお願いします。

岩城主査：それでは、「平成29年度 事業進捗状況について」説明させていただきます。資料2、平成29年度石狩市民図書館の運営と、パワーポイントをご覧ください。

「１ 子どもの学びを支援する」

学校図書館担当者会議を市内全小中学校の学校図書館担当者等を対象とし、6月23日に行ないました。内容は(1)学校図書館図書標準について石狩市独自の考え方、(2)学校図書館図書費の予算増額の主旨、(3)学校図書館の蔵書の増冊・更新に関する方針、(4)学校図書館実務に関し請求記号や、除籍、選書について説明しました。

会議終了後は任意参加で石狩市民図書館ミステリー見学ツアーと称し、普段は入ることのできない閉架書庫など図書館の裏側を含めて案内いたしました。

中学校支援は、平成28年度から実際に整備支援を行いながら状況把握しております。学校規

模や地域性などを踏まえ、学校司書の配置等について検討を進めています。また、平成 28 年度から引き続き、花川北中学校からの要請を受け学校区である双葉小学校の学校司書を月 1 回派遣しております。

こども読書週間では 5 月 7 日市内在住の本田美世氏（手作り絵本 HOHOEMI 代表）を講師に、「じゃばら絵本を作ろう」という講座を開催しました。また 4 月 25 日から 5 月 7 日まで、手作り絵本の展示も実施しました。

鎌田主査：次に、鎌田から説明いたします。

「2 資料提供や情報発信を通じて生涯学習を支援する」

本の特集展示は、「文学の中の石狩」というテーマで、石狩市が登場する文学作品の展示を 7 月 1 日から 7 月 16 日まで行いました。

6 月 3 日の開館 17 周年記念日には、日々の感謝の気持ちをこめ、利用者へ石狩市民図書でよく使用しているキャラクター、ブックンのクッキーを本館来館者へ 50 枚、図書館職員のおすすめ本を紹介したメモを添えて手渡し、分館、あいかぜとしょかんでも同様に配布いたしました。図書館職員のおすすめ本の展示も実施しましたが、こちらもすぐに借りられました。

市（農政課）と、クマゲラとの連携で 5 月 30 日から 6 月 1 日の期間、山菜生標本展を行い、いしかり森林ボランティアクマゲラの活動 PR や、山菜と毒草を実際に展示し、見分け方などの説明をしていただきました。

「3 市民の誰もが利用できるような環境を整備する」

6 月 25 日の第 3 回石狩手話フェスタ 2017 に出張貸出しコーナーを設置しましたが、布の絵本やおもちゃが子どもたちに好評でした。

「4 サービスを支える基盤を整備する」

司書研修としてレファレンス研修を 6 月 30 日の休館日に実施しました。

こども読書週間のおはなし会は、4 月 30 日厚田童話を読む会のピンチヒッターとして聚富に私設文庫を開設しているハウハさんが来館し、人形劇などを実施していただきました。また、5 月 2 日から 14 日まで、石狩市民図書館ボランティア布の絵本にじの新作を展示しました。

6 月 1 日、読み聞かせボランティア研修として当別町の私設文庫（ゆめのたね文庫）に行きました。

サイエンスアイは、科学のことなら何でも相談ということで、子どもだけでなく大人の方にも気軽に参加いただけるサイエンスおしゃべりカフェを実施していますが、これは昨年からスタートしております。

また、4 月からブックスタートボランティアを募集し、現在 2 名の方が見学に来ています。

「5 利用者への期待に応える蔵書・情報源を構築する」

雑誌リサイクル広場で6月17日、保存年限が切れた雑誌を利用者へ譲渡いたしました。また除籍本の無償譲渡として、除籍した本を7月9日に利用者へ無償譲渡いたしました。

河村会長：ご質問等ご発言がありましたらお願いします。

（4）事業者等からの寄附・寄贈について

河村会長：それでは（4）事業者等からの寄附・寄贈についてお願いします。

鎌田主査：平成28年度は、3月9日に有限会社康信グループ ティ・エス拓信商会様より児童書25冊、平成29年度には、6月28日に株式会社ワールドウッティ様より20万円のご寄附をいただき、一般書、児童書34冊を購入しております。

河村会長：ただいまの寄付、寄贈についてご質問はありませんでしょうか。

2. 協議事項

（1）市民図書館アンケートについて

河村会長：では協議事項に入ります。市民図書館アンケートについて、図書館は説明をお願いします。

清水副館長：まず資料3の実施要項ですが、前回の会議資料から河村会長にもご指導いただき、変更した箇所は、対象と手法の部分です。本日差し替えをお願いした資料3ですが、2,000人に対し送付、対象者については「性別」は男女均等に、また世代も各世代で同じ人数、地域については市の行政区ごとにその人口比率に応じた人数を条件として、無作為に抽出したいと思います。要項については以上です。

次に、資料4のアンケート用紙をご覧ください。まず、属性の中の年代ですが、20歳代以上を対象とし、上は70歳以上にまとめています。前回、ターゲットをどこにおくか議論をいただき、大人に絞ったほうが良いのではないかというご意見から、10代を外し20歳代以上対象にまとめました。一般的に、アンケート回答率が若い年代は低く高齢者の方が高いという傾向か

ら、結果が偏ることを考え、高齢者は70歳代以上にまとめたいと考えています。また、働いている人、いない人の利用傾向がみられるのでは、といった理由から職業の欄を新たに加えました。家族構成につきましては、前回必要性などを含め、大変議論いただいた内容を踏まえ、質問方法を工夫し、家族カードの利用実態を把握するために家族構成をあらためて聞く必要を無くしています。

そして、問10を追加いたしました。読書習慣について問うものです。先日、北海道新聞に掲載されていた読書習慣についての調査では、1か月に本を読む冊数が0という人が3割以上で本離れが進んでいるという結果が出ていました。子どもに読書を習慣づけるためには家庭環境が影響するといわれており、本市の大人の読書習慣がどのような状況なのか探りたいと考えていますが、この設問については、まだ練る時間が必要と考えています。

河村会長：大きくは抽出方法が変わったという点があげられます。本来は市町村の年齢構成と同じ割合で抽出すれば、市全体の縮図の抽出方法になるかと思いますが、今回のねらいは、把握したい内容が幅広い年齢層であり、性別と年齢を均等に抽出するという点が、通常の住民調査とは異なります。表示されている各年代から均等に抽出することで、たとえば20代の人口が少なくとも、300人程度は抽出できるということになります。今回のアンケートのねらいをクローズアップさせるにはそれが良いだろうと行き着いた、ということでしょうね。

委員の皆さまにも事前にアンケート用紙が送付されていたと思います。ご自身で回答していただいて、何か感じたことがありましたらご意見をお願いします。

森地委員：私も主人と回答してみました。20代でも前半後半と、もう少し細かい区分けが、また職業の分け方ももう少し工夫が必要かなと思いました。「無職」の中でも、定年で無職となったのか、求職中の無職なのか、などです。

河村会長：年代の項目は年齢を直接書かせるという方法もありますが、年齢を細かく書かなくても、分析の際には年代をまとめます。どの位の括りが良いでしょうか。

東館長：傾向をどこまで掴むかという話だと思います。大きく10歳括りの中で、ライフスタイルはいろいろあると思います。年代によって利用にどういう傾向がみえるのかということと、なぜ来館しないのかというところを今回は探りたいので、あまり細かくするよりは、と考えておりました。

河村会長：私も集計の仕方としては、これで良いと思いました。職業については参考にされる

資料があったようですね。

清水副館長：国立国会図書館が平成 26 年に実施した図書館利用者の意識調査の中の職業項目を参考にしましたが、森地委員のご意見のとおり「無職」の他に「退職者」という選択肢があったため、悩んだところではあります。しかし、年代と職業のかけあわせである程度予測可能ではと考え、また選択肢をなるべく簡素化したいと考えたことから「無職」のみにしました。

河村会長：「無職」のほかに「退職者」という項目があったほうが良いということでしょうか。回答のしやすさとしてはどうでしょう。違和感は無かったですでしょうか。

中川委員：新聞の投稿欄などでも、退職している方は「無職」と記載されていますね。

河村会長：他調査を参考にするのは良いですね。今回は、国立国会図書館のものを参考にされたということで、良いと思います。その上で、今回の調査の目的等を考えると、やはり「無職」のみで良いのではないのでしょうか。他にお気づきの点はありませんか。

問 9－(1)「図書館で充実してほしいと思う本の分野は？」についても何か参考にされたのですか。

清水副館長：昨年 70 回目を迎えた読書世論調査を参考にしています。選択肢を同じにすれば比較検討できるのではないかと考えましたが、世論調査の選択肢の言葉が硬いので、少し柔らかい表現にしました。結果比較はしづらくなりましたが、選んでいただきやすくなったのではないかと思います。

河村会長：参考にしながら項目を選んでいったということですね。選ぶ数ですが、丸をつけてもらう数は 3 つくらいで妥当ですよ。この中から 3 つ重点をおいてもらうということで良いと思います。

北條委員：問 9－(1)「図書館で充実してほしいと思う分野は？」をあとにして、同(2)「図書館で充実してほしいと思う資料の種類は？」を最初に試みてはどうでしょう。まず種類から、次に分野を問う方が見やすく、受け止めやすいのではないのでしょうか。

また、「資料」ではなく「本の種類は？」としたほうが、図書館に馴染みの薄い方には伝わりやすいのではないかと思います。

河村会長：非常に良い意見をいただいたと思います。問 9 の(2)と(1)を逆にしたほうが良いと

いうのはすっきりしますね。大きい分野を選択させてから細部を問うということですね。

ただ、種類に関しては、DVD や新聞なども選択項目に入っていますので「資料の種類」が良いと思います。

中川委員：問9については私も違和感がありました。アンケートを取る立場から見た場合、集計のしやすさからだと、まず種類を選んで、次に希望する分野を問(1)の分野の数字に丸を付けてもらうという方が良いのではないのでしょうか。

河村会長：記述式というのは意外と書かないですから、たとえば問9の(2)と(1)を逆にして、分野はナンバーでお答えくださいとしたほうが良いかもしれませんね。

東館長：集計しやすいと思います。

清水副館長：図書以外のこういったメディアを用意すると、若い世代や普段来館が少ない世代も来館してくれるのかを探るための設問であり、細かい具体的な内容まで問わなくてもこちらの目的は成立するのかもしれない。

河村会長：確かに大きいものから訊いて、次に分野を問うのは良いと思いますが、いかがですか。

中村委員：良いと思います。

森地委員：問8「自分は利用してなくても、図書館は役に立っていると思いますか？」は何のために聞くのでしょうか。

清水副館長：これは、利用していない方に図書館がどう認識されているのか、図書館に対する、我々が知り得づらい実態を把握していこうと考えました。意外性のある回答も期待しています。

森地委員：アンケート回答者を抽出した中で、たとえば利用していない人が多いと仮定した時、この設問で「いいえ」の回答者が多かった場合、図書館は必要ないのではないかと感じてしまうのではないのでしょうか。このアンケート結果は公表するのですか。

清水副館長：公表します。

森地委員：「いいえ」の回答が多すぎて図書館が役に立っていないのではないかと、なった場合、図書館をなくします、必要ないなら財政が厳しい中で維持していかなくても良いという結果になってしまうのではないのでしょうか。これは図書館側の自信の無さからくる質問なのではないか、私は不要な問いだと思います。

河村会長：問8については私が聞いたかったことで、確かに図書館不要論者はいると思います。大体の人は有るべきだと思っているでしょうが、「いいえ」を選んだ人も、自分は理由があつて使っていないでも家族が利用しているとか、教育施設として図書館がない市は困るね、といった回答が出てくれば面白いといった主旨から作った問いです。

私が出した設問は「必要だと思うか」という訊き方でしたが、石狩市民図書館側としては必要か不必要かを尋ねるのではなく、少し柔らかい問いに変えたのでしょうね。非読書家ではないが図書館は使用しないという人も図書館は不要という考えではないかもしれない、市民の登録率は18%と低いけれど、家族カードとして利用しているなど、想像ではありますが必要と考える人は多いと思います。推測ではなく実際の数値として表したい項目ではありますが。これは他の調査で行ったことは無いと思います。

「役に立っている」ではなくて、どういう言葉だと良いと思いますか。

森地委員：最後に意見を述べる項目があるので、そこに書き込んでもらえば良いのではないのでしょうか。「はい」か「いいえ」のどちらかしか選択肢がないのは変ではないのでしょうか。

青木委員：図書館はどのように役に立っているかの中で「家族が利用するから」「社会的に必要」などの選択肢に丸で選択し、特になければ「特になし」といった形で良いのではないかと思います。「はい」「いいえ」だと極端のような気はしますね。先ほどの意見にもありましたが「いいえ」が半分以上いれば図書館はいらないのかという話にもなってしまいますし。

森地委員：図書館の必要性を教えてください、というようなことでしょうか。

中村委員：この質問で、自分にとって図書館はどういうものなのか考えさせられると思います。

奥村委員：利用しない人にこの理由を訊くことによって、ネガティブな意見も聞けるチャンスも有ると思うので、面白い質問かなと思いました。

森地委員：客観的に、ということでしょうか。

河村会長：今、各市に図書館は在りますが図書館は絶対作らなければという訳ではありません。通常は登録しなければ借りられない中、石狩市民図書館が貸出冊数無制限にしたことで家族カード化しているのではないかと、裏を返せば市民の登録率が低くても、これだけ利用されています、自慢できる施設です、という結果が出れば良いと思います。行かない理由を訊いたアンケートというのは有ります。アンケートの最後には自由記述の欄は設けますが、そこに書いてくれるのはほんの僅かだと思うのです。ただ、この欄がないと意見が書けないじゃないか、ということになります。

問8は今までのアンケートにはなかった訳ですから、皆さんが違和感を抱くという意見はあると思います。

中村委員：本学でも学生にアンケートを取ったことがありました。この問8に類似し、公共図書館が必要か否か問いかけたのですが、図書館を利用しない学生でも、あればあった方が良いという回答でした。大学の図書館の読み物は硬いものが多いので、公共の図書館であればDVDなども含め資料が豊富であるなどの理由でした。その中で必要ないと回答した数はほんの数件で、単純に利用したいからあった方が良いという回答でした。学生と市民で結果は異なると思いますが、こういう項目をつけるのもひとつの案かと思います。

河村会長：「はい」「いいえ」の2択となっていますので、分析の項目としては表に出てこないという点はあると思いますが。

東館長：「はい」「いいえ」のパーセントを出すくらいでしょうか。

河村会長：例えば4ページのb「これまで行ったことがない」が利用したことが無い人なので、どこかで入れてみますか。でもこれは「行ったことがない」人への問いのため、ここでは少しおかしいですね。やはりこのままで良いのではないのでしょうか。

清水副館長：立場的にこの問いは怖い内容です。図書館の存在の根本に関わる質問だと思います。ただそれはとても重要で、今図書館が必要とされているのはどういった機能なのか、ニーズが具体的に言葉で示されてくるのではないかと期待もあります。

河村会長：私は「役に立つ」ではなく「必要」という言葉で良いと思います。不要論者がいた

ら不要論者の意見を聞いてみたい、具体的な理由を書ってくれるかは分かりませんが、あえて図書館側が自分たちのやっていることがどのように見られているのかを訊いてみるのも面白いと思います。

それとも「はい」「いいえ」ではなく、もう少し項目を選んでみましょうか。さきほど青木委員がおっしゃった内容、もう一度お願いできますか。

青木委員：「家族が行っている」「自分がいない時に代わりにいつている」「市として図書館がないのは恥ずかしい」などの選択肢ではどうでしょうか。

河村会長：そうなりますと、「必要だと思う人」の理由になってしまいますよね。

青木委員：「どうしたら行きますか」という質問だといかがでしょう。

河村会長：どうしたら、というのは「行きたい時間に開館していない」だとか、行かない理由の裏返しでわかりそうですね。利用しない人の理由ではなく、利用しないが図書館は必要、ということが訊ければ、というところなのですが。あとは図書館と詰めていきたいと思いますが。

東館長：図書館としては厳しいといえますか、挑戦かなというところですか。なぜ来館されないのかを明らかにしていきたい。実態はどうなのか、そしてこれからどういう方向に行けばよいのかが訊きたい。マイナスの意見も含め、これから先に向かう材料のひとつとして広く声を聞きたいと思っています。

河村会長：あとは指標ですよ。今までは、貸出しを沢山している図書館が良い図書館だという評価でした。また登録率も利用実態の把握として使われてきました。さらに、登録者数で市民の40%が登録していて6割が使っていないのであれば、その6割の人は利用しなくても必要という認識があるのか、それとも不要と思っているのか、今まで誰も触れてこなかった部分ですよ。

石狩市民図書館のネックは市民の登録率が低いというところ、確かに18%を切っていますが、ただそれだけを見るのではなく、これだけ役に立っていますという主張ができれば良いのではないかと思います。近隣市町村の住人の利用もあるわけですから、自分の町へのサービスだけでなく石狩市では先進的な公共サービスをしているという裏付けができれば、今後の図書館のあり方といえますか、先々のビジョン作成への方向性が見えてくるのかなと思います。住人が何を望んでいるのか。研究者の立場としては、奇抜ですしとても訊いてみたいという問いです。

清水副館長：この問いの中で「図書館」をいわゆる漠然とした図書館のイメージで「図書館は役に立っていますか」と訊くのではなく、「石狩市民図書館は役に立っていますか」としてはどうでしょうか。石狩市民図書館は、図書を借りるだけの目的でなく、交流の拠点であるということも含めて役に立っていると思うのですが、限定して訊くというのはいかがでしょうか。

河村会長：明確になって良いと思います。ただ、ここのアンケートは石狩市民宛に発送するからどうでしょう。世の中の図書館のイメージを避けるのであれば、それでも良いかと思いますが。非利用者を利用させようとするのには限界があると思います。利用していなくても図書館の存在意義はあるという答えが欲しいところですよ。

青木委員：このような無作為アンケート調査は初めてですか。

清水副館長：来館者調査などがありますが、単体での住民調査は初めてです。

河村会長：昔のように何か調べるために図書館に行くという時代ではないから、若い人にしてみれば図書館は不要という意見が出てくるかもしれません。若い世代に対して魅力を発信するサービスを展開していかなければならないですね。

青木委員：是非やった方が良いでしょう。初めてですし、やったほうが良い。

河村会長：石狩市は積極的だなと思います。皆が注目すると思います。

東館長：後押しいただきましたし、自由記述で出てきたものをどのように活かすかも含め、検討していきたいと思っています。

河村会長：他に質問やご意見などはありませんか。

奥村委員：問4の選択肢で⑦「データベース等が使える」は主に何を指しているのですか。

岩城主査：レファレンスで、道新データベースや、日経テレコンなどを使い、新聞記事や雑誌に掲載された記事を過去に遡って調べる、というものです。

奥村委員：ネットの検索かと思いましたので、それを入れた方が分かりやすいと思います。

河村会長：誤解のないように「データベース等が使える」の後に、括弧書きで入れたほうが良いでしょうか。

とにかく石狩市民図書館は先進的なことを実施していると思います。一般家庭に通信回線が少ない時代、図書館内にインターネットを使える環境を用意したり、自動貸出機も開館当時、公共図書館では珍しいものでしたね。

他によろしいでしょうか。

たくさんご意見いただきありがとうございます。あとは図書館と私に任せていただければと思いますがいかがでしょうか。

～一同『異議なし』～

河村会長：それでは十分に検討して、石狩市民図書館主体できっちりと仕上げていきたいと思っています。

その他、図書館から何かありますか。

鎌田主査：「8月以降の予定について」お伝えしたいと思います。

夏休み期間中の企画で、調べる学習コンクール夏休み特別講座を8月2日・4日に開催します。また、夏休み特別企画「つくってみよう！おもしろ工作！！」を8月13日に実施します。漫画家直筆色紙展では、水木しげる「ゲゲゲの鬼太郎」、藤子・F・不二雄氏「ドラえもん」などを8月8日から20日まで展示します。こちらの色紙は、株式会社ワールドウッティ・代表取締役の石塚氏所有の資料になります。

子母澤寛資料特別展示は8月15日から27日、厚田出身の作家、子母澤寛の初版本のほか、子母澤の使っていた原稿用紙や水入れなど、貴重な資料を展示します。こちらは、「厚田ふるさと平和・文学賞」実行委員会寄託資料となります。

石狩市郷土研究会共同講座・第68回石狩の古老に話を聞く会は、共同講座として8月19日、田中實氏を講師に大東亜戦争と石狩（市）の戦没者～大誠丸と殉国写経塔（了恵寺）～についてお話いただきます。

第7回 科学の祭典 in 石狩は9月10日、こども未来館「あいぽーと」、石狩市民図書館にて、メインステージ（札幌青少年科学館）と、働く車ブース、飲食ブースを設け、今回は日曜日に現段階で25ブース以上の出展を予定しています。

岩城主査：第6回図書館を使った調べる学習コンクール「石狩市コンクール」の審査会を10月5日、視聴覚ホールで予定しております。表彰式は10月22日にエントランスホールで行う予定です。

第18回 石狩市民図書館まつりは10月28日と29日に、テーマ「まつきり」、「こころ ウキウキ まつきりだ ワッショイ！」をサブテーマに開催します。内容については、マジックショーをジョニー・サモア氏や北大奇術研究会に、人形劇を武蔵女子短期大学、コンサートは土田英順氏にお越しいただくなど、楽しい催しとなるように運営委員の皆さんと準備を進めております。

最後に、次回の会議についてご説明します。平成29年度第2回図書館協議会は12月頃の開催を予定しております。近くなりましたら日程調整のため、皆様にご都合を伺いたと思いますので、よろしくお願いいたします。

河村会長：以上をもちまして、平成29年度第1回石狩市民図書館協議会を終了いたします。

本日はどうもありがとうございました。

平成29年8月20日

会議録署名委員

会長 河村 芳行